

田中重治名誉会長 を偲んで

山梨マスタース陸上競技連盟

会長 石川正男

田中名誉会長は去る１２月１５日享年９４歳で天国に旅立たれました。
マスタース終身会員として５５歳より競技生活に入り９１歳まで記録を樹立
しておりました。

全てが練習の賜物であり御家族の協力があつてこそその記録とおもいます。

昭和５５年全日本マスタースの創立時より鴻池現会長、織田幹雄初代会長(故人)
諸氏らと理事、競技両面において活躍されました。

山梨マスタースに目を移すと昭和５５年４月山梨中高齢者陸上競技連盟

(その後山梨マスタース陸上競技連盟に改称)として設立しました。

渡辺三郎会長、田中重治理事長、石井和司事務局長の主要人事でスタートされ
県大会はもちろん、

- ・第２回昭和５６年、第１１回平成２年の全日本マスタース選手権大会、
- ・第１回全国スポレク祭昭和６３年（甲府）

と大きな大会を開催され自分自身の競技生活と併せて理事長１２年間

山梨マスタース活動の基礎を築いて頂きました。

その後土井徳造理事長に代わり平成１６年急逝され渡辺会長の指示により

入会６年目で大島理事長石川事務局長にてスタート、直後に故あつて渡辺会長が

辞任、会長を誰にお願いするか？ 田中さんに白羽の矢をたて庶務一切は

私が受けますのでご迷惑はかけませんからお願いいたしますと懇願し

こころよく引受けて下さいました。

「火中の栗を拾い」１７年より実質理事長として現在まで任務についておりますが私
がマスタースに入会したのは平成１０年スタートです、

田中さんにお会いしたのもこの時が初めてであり会長を辞任する時まで

運営のご指導を受けました、温厚誠実な性格で声を荒げず、

穏やかな笑顔で接し、県内外の人達から慕われていました。

鴻池会長とは年四回ほど会議、大会などでお会い致しますが必ず石川君田中さんは
元気になっているかい、このごろ顔がみえないけど、とよく当時からのよもやま話を
してくださいました。

生涯現役をめざし田中家の応接間は４００個以上の世界大会、全日本大会、

山梨大会のメダル・トロフィー・それに殿堂入り顕彰が陳列してあり

壮観そのものでありました。

マスタース総会時殿堂入り記念祝賀会を開き記念品として頂いた

電波時計は、我が家の居間で現在も時を刻み続けております。

ここで名誉会長が生涯の記録関係を整理し記載しておきます（２０１７年現在）

全日本マスターズ陸上競技連盟 終身会員

全日本マスターズ陸上競技選手権大会 30回連続出場

世界マスターズ陸上競技選手権大会 10回以上出場

アジアマスターズ陸上競技選手権大会 10回以上出場

世界記録は全て更新されました。

日本記録

80 mH M80 14.91 M85 18.61

棒高跳 M75 2m80cm M80 2m52cm M85 2m05cm

十種競技 M85 5964 17.21/3.66/7.21/1.05/DNF/18.61/14.72
2.00/18.90/DNF

山梨県記録

60 m M85 10.96

100 m M85 18.30

80 mH M70 14.12 M75 14.75 M80 14.91 M85 18.61

走高跳 M60 1m45 M65 1m35 M70 1m30 M75 1m25

M80 1m15 M85 1m00

棒高跳 M65 2m60 M70 2m85 M75 2m80 M80 2m52

M85 2m05

走幅跳 M60 5m27 M65 5m24 M70 4m87 M75 4m48

M80 4m10 M85 3m08 M90 2m90

三段跳 M60 10m91 M65 10m54 M70 10m24 M75 9m87

M80 8m84 M85 7m41 M90 6m46

十種競技 M75 6517 M85 5964 (日本記録に同じ)

以上の記録はいまも燦然と輝いています。

少子高齢化社会と言われて何年経つでしょうか、

生涯スポーツといえども90歳で競技し記録を樹立する事は

心技体の何物でもありません。

山梨マスターズの90歳代で活躍する人は二人になり大切な競技者になりました。

未熟者の私が生涯スポーツの名に恥じない運営に専念しなければなりません、

先人の遺産を守り改革も進めながら邁進していく事が私の責務とおもいます。

会員一同後世に残る田中会長の功績を再認識し、

あらためてご冥福をお祈り申し上げます。

合掌